

## ◎景気ウォッチャー調査[2020年9月]

### 2020年9月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断DI(合計)は、前月を6.6ポイント上回る49.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「イベント規制の緩和やGo To Travelキャンペーンの実施で来客数が回復している。」(コンビニ)、「新型コロナウイルスが多少落ち着いているため、景気はやや良くなっている。」(タクシー運転手)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.1ポイント上回る49.2となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「受注減少から一時休業で生産調整を実施しているが、受注量が多少上向き、休業日数が減少している。」(窯業・土石製品製造業)、「自動車産業の回復にあわせて若干荷動きが戻ってきている。」(鉄鋼業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を7.3ポイント上回る50.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「大手製造業の工場のラインが一部動き出したため、景気はやや良くなっている。」(求人情報誌製作会社)、「人との接触を避けるため、客との打合せや面談を控えていた企業が、様々な対策を講じることで対面機会を増やしていることから、ビジネス機会が増加してきている」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.8ポイント上回る50.0となった。

	9月	8月	前月差
合計	49.6	43.0	6.6
家計動向関連	49.2	43.1	6.1
企業動向関連	50.7	43.4	7.3
雇用関連(参考値)	50.0	41.2	8.8

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断DI(合計)は、前月を6.9ポイント上回る48.5となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「来年の1月くらいまではGo To Travelキャンペーンの効果で旅行者の予約は増加する。」(観光型ホテル)、「新型コロナウイルスの影響で巣籠り需要が高まっているため、手作り商材や鍋の材料等の伸びが増加する。」(スーパー)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を7.2ポイント上回る47.5となった。

企業動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「観光地や飲食店に客が戻りつつあり、景気は現状よりは良くなる。」(食料品製造業)、「景気はまだまだ悪いが、今後は政府の様々な施策もあり、これまでよりはやや良くなる。」(木材木製品製造業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.7ポイント上回る50.0となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「企業は一時の閉塞感から脱却しつつあり、新型コロナウイルスに対する制限緩和もあり、市場も緩やかながら回復していく。」(新聞社)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を11.7ポイント上回る52.9となった。

	9月	8月	前月差
合計	48.5	41.6	6.9
家計動向関連	47.5	40.3	7.2
企業動向関連	50.0	46.3	3.7
雇用関連(参考値)	52.9	41.2	11.7